

同行避難(どうこうひなん)、できますか？

あなたと愛犬・愛猫の「一緒に避難できるか度」チェック

災害は突然におそってきます。危険が迫った時、避難が必要になった時はどうすればよいか、日ごろから準備しておかねばなりません。また自力で避難することが困難な方（災害時要援護者／高齢者や介助を必要とする方、乳幼児など）が家族におられる場合は、特に家族内での役割分担や避難方法を話し合っておく必要があります。そして、犬や猫などペットを飼育されている飼い主さんなら、ペットたちも一緒に連れて避難ができるように備えておいてください。

20の質問に答えて、あなたと愛犬・愛猫の「一緒に避難できるか度」をチェックしてみましょう！



災害は突然に起こります。

いざというとき、あなたのご家族とペットたちが、

ともに安全に避難をするためには、

日頃からの心構えと備えが何よりも大切です。



同行避難(どうこうひなん)、できますか？

あなたと愛犬・愛猫の「一緒に避難できるか度」チェック

「はい」なら□に✓印を入れてください

1. 家具が倒れたりガラスが割れて飛び散ったりしないよう、住まいの安全対策を普段から心がけている。
2. 災害発生時、家族間の連絡方法や避難場所について、あらかじめ話し合っている。
3. 避難場所やそこへ行くまでの経路、所要時間は調べてある。
4. 飼育しているすべてのペットを連れて避難場所まで行くことができる。
5. 地域で行われる防災訓練や避難訓練に参加したことがある。
6. 緊急避難時の持ち出し袋は、人間用はもちろんペット用も用意している。
7. ペット用の持ち出し袋には、最低3日分のペットフードや飲み水、ペットシートなどを入れてある。
8. 自家用車のガソリンは常に余裕があるよう給油している。
9. 避難所ではご近所の人たちと協力して助け合い、少しの迷惑もかけないように配慮する。
10. 愛犬や愛猫を預かってもらえる親戚や友人、知人をみつけてある。
11. 迷子札や鑑札、マイクロチップなど、ペットの個体識別ができるものを付けている。
12. 愛犬や愛猫の写真は、スマホやタブレットに入れてある。
13. ワクチン接種やノミ・ダニ予防、定期的な健康診断で、健康管理は万全だ。
14. 愛犬の登録と毎年の狂犬病予防接種は済ませている。
15. 愛猫は放し飼いにせず、室内飼育をしている。
16. 飼い主以外の人に撫でられたり触られたりしても平気だ。
17. ケージやキャリーバッグには嫌がらずに入って、おとなしくしていただける。
18. トイレのしつけができています。
19. 不妊手術は、済ませてある。
20. 定期的なシャンプーやブラッシングでいつも身体や被毛は清潔にしている。

✓の合計数 個

あなたと愛犬・愛猫の「一緒に避難できるか度」は？
✓の数

あなたの愛犬・愛猫と「一緒に避難できるか度」はどうでしたか？愛犬・愛猫たちも家族の一員。避難が必要になった時は愛犬も愛猫も一緒に連れて避難できるよう普段から十分に準備をしておきましょう。

16個以上	🌸	達人 たいへんよくできました
11~15個	◯	上級者 よくできました。達人をめざしましょう
6~10個	△	中級者 もうひとがんばりお願いします
5個以下		まだまだ初心者 ひとつでも✓を増やしていきましょう